愛媛大学×愛媛県「提案募集を活用した地域課題解決プロジェクト」

○ 愛媛大学と愛媛県は提案募集を基軸とした連携を昨年度から重ねてきており、今年度は、八幡浜市の商店街でのフィールドワーク等を通じ、提案募集による地域活性化の方策について検討。

○ 活動報告会では、現地の声から発見した制度上の課題等について発表した。今後は、今回発表された提案のタネを元に、八幡浜市による提案に向けた検討が行われ、内閣府としても積極的に協力していく。

報告会の概要

◆日　　時：令和元年１０月３０日（水）10:00～12:00
◆場　　所：愛媛県水産会館　６階大会議室
◆参 加 者：約８０名（愛媛県職員、愛媛県市町職員、教育関係者等）
◆基調講演：内閣府地方分権改革推進室　参　事　官　萩原　英樹
　　参事官補佐　舘澤　清城
　　調　査　員　染野　遥

◆学生による報告
「八幡浜市の商店街の実態調査及び制度的課題の抽出」
・街中で楽しめる食の参加型イベントの企画を提案
・体験観光で使用する遊漁船に関する支障を発見

内閣府からの講義の状況

大学生による
活動報告の状況

参加した方の意見

＜学生の声＞
提案募集制度をうまく活用して、地域がより暮らしやすい場所になるように主体的に行動していきたい。

＜大学の声＞
学生たちにとって貴重な経験になった。今後の活動においても、提案募集制度に絡む課題を発見したら、自治体関係者に働きかけを行いたい。

＜参加者の声＞
商店街の活性化については、解決策が見当たらずに苦戦していたが、今回の発表を聞いて、制度を変えることが突破口になることがわかった。

【「提案募集を活用した地域課題解決プロジェクト」プログラム概要】

プログラム	実施日	内容
地方分権改革セミナー	7月10日（水）	内閣府及び愛媛県より、提案募集方式や空き家・空き店舗の状況について説明。
フィールドワーク	7月31日（水） 9月27日（金） 10月 4日（金） 10月16日（水）	八幡浜市役所・八幡浜商店街にて、実態把握のための調査を実施。愛媛県職員、八幡浜市役所職員が提案検討に向けてアドバイスを実施。
活動報告会	10月30日（水）	活動成果と解決に向けた方策を発表。

中京大学×豊田市「提案募集方式を活用し地域課題解決にチャレンジ！」

○ 平成31年より、中京大学と豊田市の連携を開始。テーマを「外国人」、「中山間地域」に設定し、中京大学の令和元年後半の講義（２限分）を通じて、学生が地域の課題を自ら発見し、提案募集方式を活用した解決策を検討。

○ 学生はグループごとに地域へのヒアリング等を行った上で、検討した解決策を豊田市長・内閣府・地域の方等を対象に発表。実現可能性を意識した活発な提案となり、今後は提案募集につながる案件を豊田市で整理する。

内閣府の支援：ステップ1　導入

◆令和元年11月１日（金）
13:30～16:30
◆中京大学　豊田キャンパス
◆講義：参事官　萩原　英樹
調査員　近藤　乃介

○内閣府より提案募集方式を説明。
その後、地域の課題について、市職員、NPO団体がそれぞれ説明。

内閣府からの講義の様子

内閣府の支援：ステップ2　追究

◆令和元年11月29日（金）
13:30～16:30
◆中京大学　豊田キャンパス
◆参加：参事官補佐　舘澤　清城
調査員　近藤　乃介
調査員　本田　哲朗

○学生が考える課題と解決策を発表。
市、内閣府、関係団体から施策立案のポイント等を助言。

学生による中間発表の様子

学生自ら地域の課題に直面し、学生の視点で改善策を検討。市は地元地域団体との取次等学生の活動を支援

内閣府の支援：ステップ3　展開

◆令和２年１月10日（金）
13:30～16:30
◆中京大学　豊田キャンパス
◆参加：参事官　萩原　英樹
参事官補佐　舘澤　清城
調査員　近藤　乃介

○学生自らが地域にヒアリングに入って必要な施策を検討し、豊田市長・地域の方・内閣府に対し提案を発表。
提案募集につながる支障を今後豊田市で整理。

班	提案内容
A	国籍を超えた第3の居場所
B	在住外国人と日本人の交流が少ない保見で中京大生が作るコミュニティ
C	保見団地におけるゴミ問題、マナー問題
D	中山間地域の農地保全の担い手不足を改善するために企業と学生をとり入れた持続可能な環境づくり
E	若手人材の不足から起こる伝統文化の衰退の危機
F	中山間地域の過疎化による空き家の増加
G	中山間地域の移動手段不足

宇都宮大学地域デザイン科学部「政策過程論」とのコラボ（令和元年6月13日）

○ 宇都宮大学地域デザイン科学部では、自治体の持つ地域課題を解決方法を検討する「地域プロジェクト演習」を3年生を対象に実施しており、解決方法として提案募集方式を学ぶために講師を派遣。

○ 地域プロジェクト演習では、自治体が設定した28のテーマについてグループごとに解決方法を検討しており、制度面での支障を解決できないかの視座をもって、課題解決を考える有用性について理解を深めた。

○ 今後は、自治体職員への理解を深める説明会を行うとともに、必要に応じてプロジェクトに関する具体な助言等を実施。

勉強会の概要

◆日　時：令和元年6月13日（木）14:30～16:00

◆場　所：宇都宮大学陽東キャンパス11号館1階AL３教室

◆参加者：約40名（宇都宮大学地域デザイン科学部地域コミュニティデザイン学科3年生）

◆講　師：内閣府参事官補佐 舘澤 清城

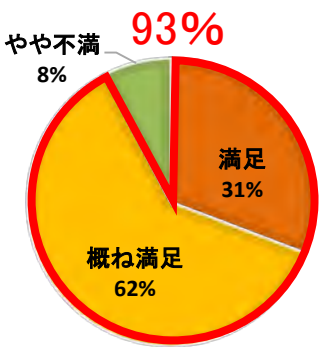
勉強会に参加した方の意見

● プロジェクト演習で市と国で意見が違って行き詰っている状況もあると聞いたので相談してみたい。

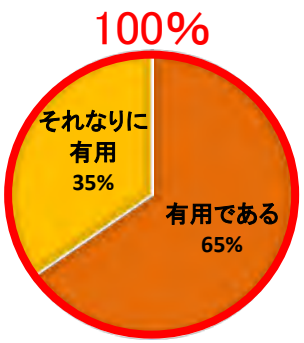
● 住民の意見が反映される取組みなのでとても良い取組。一方、行政に相談できない人もいるのでそういう人の声を拾うことも必要と感じた。

● 国家公務員でも住民にかなり近い距離で仕事をできることもあると知ったので、就職先の候補になった。

＜受講者アンケート結果＞



Q：講義に満足したか



Q：提案募集方式の有用性

内閣府からの講義の状況

プロジェクト推進のための助言の状況

奈良女子大学で地域志向型の特別講義を開催

（令和元年７月３日）
＜受講者564名＞

○奈良女子大学は、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の指定を受けており、地域に対する意識醸成及び県内就職への意識を高めるため、特別講義を開催。

○「国の地方創生政策と地方分権改革の取組み」をテーマに、受講した５６４名の学生は、地域の課題を解決していくための提案募集方式について理解を深めた。

講壇にて説明する萩原内閣府参事官

講義の概要

◆日　時：令和元年７月３日（水）13:00～13:45
◆場　所：奈良女子大学 講堂
◆受講者：５６４名
◆講　師：内閣府参事官 萩原 英樹
◆科　目：地域志向型教育科目　「『奈良』女子大学入門」

勉強会に参加した学生の意見

●自分から意見することで法律が変わる仕組みがあることは初めて知りました。私の地元は田舎で不便なことが多いのですが、きちんと見直してみればもっと住みやすい町に変えられるのではないかと思いました。

●内閣府の話を聞いて、市民の声での日本の法律や制度を変えることができるのは非常に良かったと思います。もし自分の国でも、そういう制度があったら、もっといいだろう。（留学生）

●国家公務員になりたいと思いました。また、提案について知らなかったので将来、何か弊害を感じたときに提案してみたいと思いました。

講義の状況

室蘭工業大学・小樽商科大学合同講義「地域再生システム論」とのコラボ（令和元年9月2日）

○ 室蘭工業大学・小樽商科大学では、合同講義「地域再生システム論」の中で、地域の企業や行政の取組み等を学び、解決策を提案するフィールドワークを行っており、今年は「港のある街 苫小牧」をテーマに苫小牧市の観光振興・交流推進施策の立案を検討。

○ 内閣府では、国家公務員の仕事と「提案募集方式」を説明する講義を実施し、学生たちは制度面からのアプローチによる地域課題解決手法について理解を深めた。

勉強会の概要

◆日　時：令和元年９月２日（月）13:50～14:30

◆場　所：苫小牧市文化交流センター（アイビー・プラザ）

◆参加者：約70名（室蘭工業大学・小樽商科大学・苫小牧高専の学生）

◆講　師：内閣府地方分権改革推進室　参事官補佐　舘澤 清城

調　査　員　染野　遥

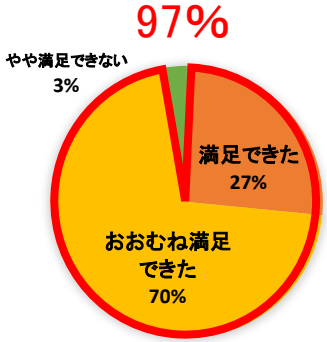
内閣府からの講義の状況

勉強会に参加した方の主な意見

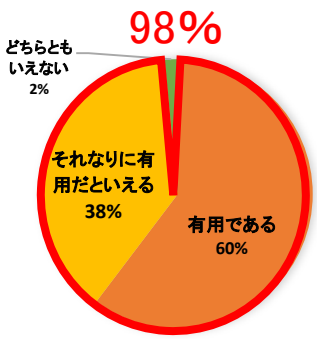
●提案募集方式が地方の様々な問題を解決する手段の一つになると理解した。このような手法を用いてより住みたいと思えるような街づくりができたらいいなと思う。

●提案募集方式の一番の敵は、「若者の無関心」であると思う。地域の課題、国の制度、両者を組み合わせて自らの生活を改善していくアプローチの過程について、もっと若年層の認知度アップが必要だと感じた。

●普段の生活では、活動のよく分からない国家公務員の仕事が良く理解でき、少し身近に感じることができるようになった。



Q：講義に満足したか



Q：提案募集方式の有用性

＜受講者アンケート結果＞

高校生の地方創生学習支援（長崎県立中五島高等学校）

○ 長崎県新上五島町にある中五島高等高校では、高校生が新上五島町、地元企業と一緒に急速に進行する人口減少と少子高齢化に向き合い、一丸となって「島の活性化」を実現しようとする「パブリックワーク」を実施。

○ 内閣府は、８月27日の中間発表に招待頂き、高校生の考えたプログラムに助言するとともに、提案募集方式を高校生や町職員に説明し、制度面からの地域の課題解決手法について学習を支援。

学習会の概要

◆ 日　時：令和元年８月27日（火）13:00～16:00

◆ 場　所：長崎県立中五島高等学校

◆ 参加者：２年生２５名（発表）１年生２５名、新上五島町員、
学習院女子大学、内閣府地方分権改革推進室
参事官 萩原 英樹、参事官補佐 舘澤 清城、調査員 近藤 乃介

高校生の発表内容

生徒たちは自らテーマを探索し、熱心に研究した以下の内容を発表

- 「種まきプロジェクト　I・Uターン」
- 「福祉～KAMIGOTO健康プロジェクト～」
- 「かんころ新商品（かんころころり）」
- 「水産資源を活用して新上五島の発展（Fish＆Chips）」
- 「屋内遊戯施設をつくろう（Children Space）」
- 「町の企業をつなぐ（島の商業を１つに！）」

← 中五島高校（外観）

研究内容を発表する中五島高生 →

← 町役場職員、大学生等と熱心に議論する高校生

発表について助言を行う萩原参事官 →